

「新之助」生育速報 号外

令和2年9月16日
村上農業普及指導センター

適期収穫と丁寧な乾燥・調製で確実に基準適合！

1 生育調査ほ等における生育状況

生育概況

- 7月下旬の低温等により幼穂伸長期間が長くなり、管内の出穂期は前年より4日遅く8月16日であった。
- 出穂期の葉色は指標値並で、その後も概ね指標値並に推移している。
- 登熟期の高温で収穫適期が早まると予想される。また、多くの地域が高温登熟条件に該当し、特に胴割粒発生による品質低下が懸念される。

新之助生育調査ほ・実証ほの出穂後の葉色調査結果

調査場所	田植日	出穂期	葉色(SPAD)		
			出穂期	出穂15日後	出穂25日後
関川村下関(関川)	5月15日	8月21日	33.0	33.2	28.6
村上市牛屋(神林)	5月15日	8月13日	34.8	34.1	31.3
村上市岩沢(朝日)	5月19日	8月14日	34.5	32.7	28.7
平均	5月16日	8月16日	34.1	33.3	29.5
指標値	5月15日	8月13日	35.0	34.0	31.0
【参考:前年平均】	5月19日	8月14日	35.0	34.2	32.8

2 今後の技術対策

◎収穫時期の判断

- ・出穂後0~19日間の日平均気温が27℃以上の場合は立毛胴割れの多発生が懸念されるが、今年の新之助の多くはこの高温条件に当てはまっている。新之助は胴割れの発生しやすい品種なので特に注意が必要となる。
- ・収穫時期は、通常の収穫適期のめやす(積算温度1,050~1,100℃)より2日(積算温度で50℃)程度早い時期をめやすとする。
- ・籾黄化割合85~90%が収穫適期なので、成熟期近くになったら必ずほ場で籾の黄化程度を見て、実際の収穫時期を判断する。茎葉や穂軸の色は品種や栽培条件等で変わるので、必ず籾の色で判断する。

積算温度による収穫適期のめやす(9月15日現在)

出穂期	収穫適期のめやす	積算温度
8月13日	9月21日～9月23日	1,000～1,050℃
8月16日	9月25日～9月28日	
8月19日	9月29日～10月2日	

- ・出穂期以降の平均気温(気象観測地点:村上)により積算温度を計算、9月16日以降は平年値で推定
- ・最新の積算温度は村上地域振興局農林振興部HP「水稲の収穫適期判定に関する情報」で確認できる。

- ・葉色が濃いほ場では玄米タンパク質含有率が食味・品質基準値を超過する恐れがあるので、下図のめやすを参考に葉色調査を行い、刈分けの可否を判断する。

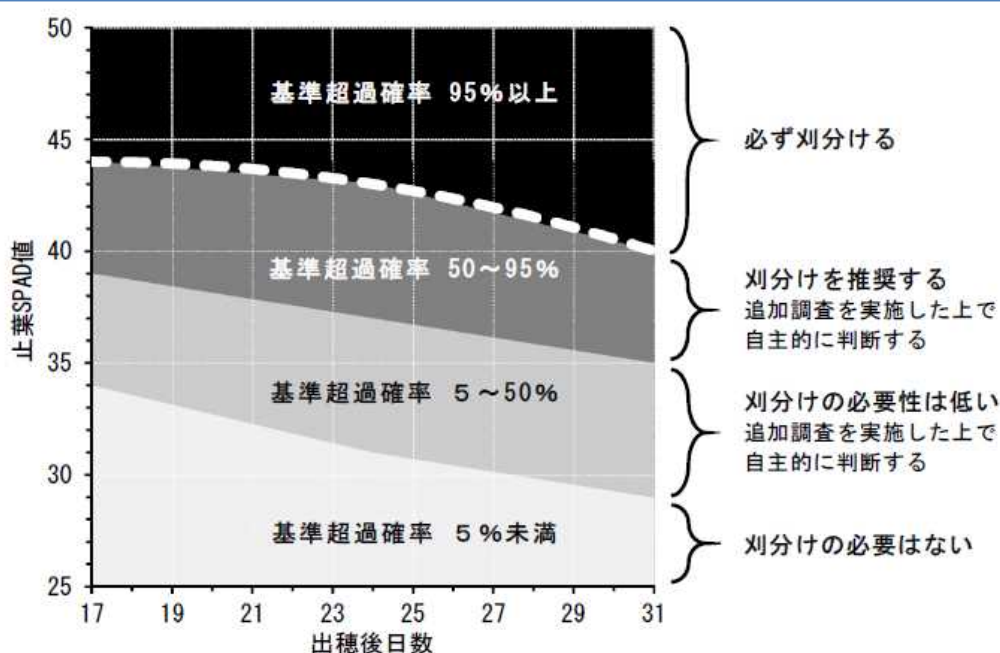


図 「新之助」の出穂日数と止葉 SPAD 値に基づく玄米タンパク質含有率基準値(6.3%)の超過確率とそれを基にした刈分け判断のめやす(新潟農総研 R2 成果情報)

◎高温登熟条件下での乾燥・調製の留意点

- ・立毛胴割れの発生が懸念されるので、乾燥機の送風温度を通常より低めに設定する。乾燥速度を毎時 0.5%以下にして乾燥する。
- ・低水分粳では、水分のバラツキが大きい場合があるので、乾燥時の水分ムラの解消のため、張り込み後に軽く通風し、半日程度貯留してから加熱乾燥を開始する(乾燥機に 2 段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合は、その機能を活用する)。
- ・未熟粒は粒厚が薄い傾向にあるので、必ず 1.9mm 以上のふるい目を用い、流量調節を適正にして、未熟粒やくず米を除去する。
- ・色彩選別機を使用する場合は、選別状態の確認と感度調整をこまめに行い、より効率的な選別を心がける。